

市長が語る「篠山再生計画」

篠山市長
酒井 隆明

酒井隆明（さかい たかあき）

1954 年兵庫県篠山市生まれ。1978 年中央大学法学部卒業、司法試験合格。1981 年弁護士登録。1995 年～2007 年兵庫県議会議員。県民生活、文教、建設の各常任委員会や県の監査委員を務める。2007 年「篠山再生」、「ふるさと日本一と誇れる篠山市づくり」を掲げ、篠山市長就任。現在に至る。

美しい城下町、篠山

酒井 兵庫県篠山市長の酒井です。このような場で報告させていただくことを光栄に思っております。少しでもお役に立てればと思っております。

篠山市は今年で 10 年を迎えましたが、5 周年目にまとめたビデオがあります。ビデオをごらんいただきまして、あらましを知っていただきたいと思います。

（ビデオにて概要説明）

篠山市がどんなところか、おおまかな取り組みをご理解いただけたのではないかと思いますので、私が就任してから後の再生に向けた取り組みを中心にお話させていただきます。篠山市の概要ですが、まちの中心には築城 400 年を迎える篠山城跡がありまして、その周辺に田んぼと山並みが広がっています。小京都と呼んでいただいたり、日本の美しい城下町に選んでいただいたり、景観に優れておりまして、「篠山に来るとホッとする」と感想をいただいたりするような、きれいなまちです。日本の原風景のまちであるということから、今年（2009 年）8 月に、景観

法では日本の第一人者であります東京大学の西村（幸夫）先生にお越しいただき、「阪神間から 1 時間の距離でこういう風景が残されているのは奇跡的である」とお褒めもいただきました。篠山市にお越しいただく観光客は確実に増え続けておりまして、大変ありがたいと思っております。秋の黒豆は大変評判でありまして、また一度、お越しいただきたいと思います。

合併特例債の錯覚

合併しましたのが平成 11（1999）年 4 月でしたので、丸十年たっております。合併するきっかけとなったのは多紀郡 4 町（篠山町、西紀町、丹南町、今田町）で取り組んでおった広域的な課題からです。水が足りないという水の問題とごみ処理場と斎場が広域的な課題でありまして、これを解決するために合併となりました。平成の大合併の先駆けとしての合併というよりも、もともと多紀郡 4 町はまとまりのある地域で、江戸時代から篠山藩として一つの領域でしたから、強制的な合併というよりも、今までに何度か合併に失敗

してきておりますので、昭和の合併の一番遅れたものとも言えるのではないかと思います。

合併してからは合併特例債が出て有利な事業ができるということで、いろんな事業をしてきました。「サービスは高く、負担は低く」というスローガンで、合併に大きな夢を描いて、今までできなかったことが、どんどんできるようになると錯覚をしたところがあります。私は市長になって3年ですが、当初は順調なスタートでしたが、合併5周年頃にはそういう状況が危惧されておりました。先代の市長もはじめの4年間はハードの整備、そのあとはハードからソフトへと考えていました。でも、それがうまくいかなくなっていました。

人口も合併時は4万7000人でした。目標は将来6万人構想を目指したまちづくりをするということで、過大な基盤整備につながったところがあるかもしれません。しかし、現実には、合併からしばらくの間は人口も少し増えましたが、平成14(2002)年をピークに減少し、現在は4万5000人で減少傾向にあります。

私が市長選挙に出ましたのが平成19(2007)年2月です。こちらにお持ちしたのが、当時の選挙用ハガキです。公約は「ありのままの情報公開」と「住民参画」を進めます。1番の公約が「未来に責任ある財政計画を立て、改革を進めます。ただちに篠山市財政会議を立ち上げるとともに財政状況をわかりやすく公表し、何を優先し、削るか、組織と仕事内容、人件費など幅広く議論します」。これが私の就任前からの大きな課題となっておりました。

就任後、5月に財政状況を発表しました。第二の夕張になるのではないかと不安か

らです。残念ながら、それまでの前市長の時には財政状況が明らかにされておられませんでした。テレビ、新聞で借金の大きさが採り上げられたものの、「大丈夫だ」となっていたんです。そこをもう一つ明らかにしないといけないということで、やったわけです。その大きな原因は、たくさんの施設整備です。当時示した、「このままいくと財政がどうなるか」という見通しです。平成19(2007)年から平成27(2015)年までの収入と支出の差引は、平成19年度が8億1000万円の不足です。平成20(2008)年以降、毎年10億以上、15億のものの不足が出てくる計算になります。それをどうするか考えなくてはなりません。財政調整基金は平成21(2009)年度になくなります。地域振興基金も平成23(2011)年度にはなくなるということで、早く考えなければ危機的な状況が迫っていることを示しました。特に合併後10年間は国から交付税が余分目に計算してもらえます。それが10年を過ぎると本来の市の分しかもらえません。それが平成22(2010)年度から始まります。5年間かけて本来の交付税の姿に戻されまして、平成22年度から削減が始まりますので、それまでに体制を整えなければ危機が目前に迫っていました。

市民の声を集めて

どういう手法を用いたかと申しますと、公約で挙げました「篠山再生市民会議」を立ち上げました。市民の声を集めて再生の方針をつくろうとしたわけです。なぜかという、市民の声を集めなければ市役所内部からも議会からも声は上がらないからです。合併してから8年の間、前の市長のもとに職員も議会もありましたから、再生するというこ

は、今までのことを否定することになります。それに快いはずはありません。市長になって市役所に入って、「再生は私一人がするわけではありません。職員自ら考えてください」と言っても、職員の中から一向に（声は）出てきません。議会も「何が再生や」と。再生という言葉は死んでしまったようなニュアンスで、とても内部からの改革はできない、ということで「篠山再生市民会議」を立ち上げました。委員は10名中、9名は公募しました。30名近くの方に申し込んでいただき、論文試験をしまして選びました。役所がつくる委員会や審議会は、市役所が主体的に先導して「これでよろしいですか」、「はい」ということも、多いことはありませんが、あるのではないかと思います、この市民会議はそうではなく、本当に言いつぎるくらい（委員に）言っていただと思います。委員長は関西学院大学の長峯（純一）先生。この方は前から篠山市にかかわっておられた方で、その方と、市民の方々と活発に議論していただき、大きく新聞に採り上げられたりして、市民の反響を呼びました。

地元の丹波新聞が「酒井市長の手法。最も目立つのは財政再建へのスタートダッシュである」「このままでは3年後に予算組み危機と予想を発表」と。「本当のことをお知らせして市民の力で乗り越えるしかない、自らも給与削減を実行している。しかし市民の中には財政が危ないと言いつぎるとかえって人口が減る」。またいくら当初から行革案を出したんですが、「組合とのメドも立っていない。組合との交渉ができていないではないか」。職員の人件費に手をつけることを考えておりましたので「職員からモチベーションが下がったとの声を聞く」。こういうふうに記者の感想ですが、当初から、かなり危

ないというと、暗くなるではないか。職員は給与が下がるということがあって、かなりの反発があったと思います。

（1999年）11月に篠山再生市民会議から、「篠山再生計画（行財政改革編）」の第一次答申を出していただきました。答申の前段階の「なぜこのような財政悪化を招いたか」については「人口6万人構想をはじめ、甘い将来見通しと合併特例債を活用して身の丈以上の公共事業をしたことにある。財政の見直しも、その後の見直しも楽観的すぎて甘いものであった。マネジメント感覚の欠如といわざるをえない」と厳しく指摘されています。このままでは破綻寸前になるので、毎年15億円以上の赤字の削減をしなければいけない。篠山市の財政規模で削減可能な一般財源は85億円しかなく、そこから15億円を削るのは難しいが、これをしなければ明日はないという前提のもとでの提言でした。職員は当時、670人おりましたが、それを400人にする。職員給与は20%削減する。50歳の昇給停止、補助金は10%削減。投資的経費は6億円から1億円削る。物件費は10～20%削減。議員報酬は20%削減。市民会議の提言であります。

篠山再生計画の始動

2008年2月6日、橋下知事が誕生しました。橋下さんは職員に「皆さんは破産会社の従業員だ」と言って、それがテレビでよく採り上げられました。橋下知事の取り組みがテレビで紹介され、篠山市民もこれを見て、私のところも同じだと感じたと思います。私も元弁護士で、橋下さんも弁護士だということで、重ねて市民が見たところがあると思います。私は1年前からやっていたんですが、橋下さ

んの改革の手法は、問題をボンと上げて、大きな人気でマスコミに大きく報道されて改革ができていくんですが、私のところのような5万人弱の小さなまちでは、なかなかそういう手法は用いることができません。きめ細かな説明と議論をしなければ次に進まなかったということで、手法としては橋下さんのような人気を背景にというのは普通の自治体では難しいのではないかと思います。けれども、橋下さんのことは篠山市にも、少なからずの影響を与えたと思います。

平成20(2008)年度の予算策定時には、「職員給与先送り、程遠い再生への道」と厳しいご指摘をいただきました。私としても、4億5000万円の削減や、職員数の削減、庁内の清掃作業は職員が実施(と努力はしました)。ですが、再生市民会議の提案は3月の予算には反映できなかったのも、こういう厳しいご指摘をいただいたんです。「酒井市長は6月に削減をやる、もう少し待ってほしい、できなければ責任をとると力を込める。破綻目前としながら道筋が示されないままでは市民の不安は消えない。手をこまねいている時間は残されていない」という厳しいご指摘をいただきました。なぜここで私がこの予算案に反映できなかったのか。私一人では削減ができるものではないということです。

4月には63名が退職しました。670名のうち63名と、1割近い職員が退職しました。篠山市の厳しい状況を理解して後進に道を譲るとやめてくれた方もいました。長くおって私のやり方にはついていけないという職員もあったのではないかと思います。篠山市におったら潰れそうやからという見方もされましたが、これによって、実質、この年に職員の配置も新しい体制ができた。そこで初めてスタートできたと思っています。

議員が変わる、議会が変わる

議会との関係も重要です。市長一人では改革はできません。何をするにも議会に承認していただかないと、議会と対立して解散したり、市長の不信任になったりします。平成20(2008)年4月には、市会議員の選挙がありました。定数20人で、現職が過半数引退し、「ハコもの行財政危機、逃亡」との批判もありました。市民は篠山市が厳しくなったのは前の市長だけの責任ではない。議会は何をしていたか。議員も責任があるだろうと考えていました。現職は20人のうち11人が引退したのです。こういうことは、まずないと思います。立候補できなくなったのです。私も、職員の人件費を削ろうにも、職員組合があります。私自身が出て交渉しましたが、3%くらいだったら飲むといってくれましたが、とても10%という数字は出てこない。職員組合が承知しないと、議会の議決を得ればいいんですが、当時、計算しましたら、いくら計算しても承認してくれることは無理でした。「6月まで待ってくれ」と言ったのは、こういう意味なんです。議会が変わらなければ、変えられない。社民党、共産党は絶対反対ですわ。民主党も組合系は反対です。改革に賛成してくれるのは保守系の改革派しかないんです。それを計算すると昔からいる議員は職員を大事にせよと思っていますので、どう計算しても議会を通らないので、できなかったわけです。

20名のうち13名が新人議員になりました。3分の2が入れ代わった。こんな議会はありませんね。普通、議会の改選で、3分の2が入れ代わることはありえないと思います。それだけ市民の目にも「今まで何をしてあったんだ、議会も新しくならなければいけない」

と思っていた。これが私にとっても、議会にとっても、篠山を何とか改革しないといけないということになりました。

再生計画の実現に向けて

6月に再生計画（案）を発表しました。案の内容は市民会議の提案より、少し現実的なものになりました。給与は10%削減にしました。市民会議は20%削減でしたが、10%が限度でした。職員数は400人とされたのを450人にしました。合併後つくったプール、篠山チルドレンズ・ミュージアム、さぎそうホール、丹波杜氏酒造記念館、これは経費のかからない運営方法があれば検討するが、なければ休館もやむをえない。図書館と市民センターに図書コーナーがありましたが、市民センターの方は職員をおきませんと。事務事業も見直すという案を出しました。

この案をもとに市内各地の「ふるさと一番会議」で計画案を説明してまわったんですが、どこへ行っても、皆さん反対されます。丹波新聞では「施設休止案に反対署名」。温水プールは篠山市の財政では贅沢なものですから、採算がとれないから廃止にしようとする、「健康づくりにこんなよいものはない」と利用者の方がおっしゃる。市民センターの図書コーナーでは「図書館は別にあるから市民センターは職員をおけません。自習コーナーでいいでしょう」と言う。「文化を大事にしない市長はアホか」と怒られるんです。そして、合併して大きくなっていますから「支所がなくなると不便になる」と。どれについても利用者からの強い反対がありました。市民全体が「反対」とは思っていない。市民全体は「改革を断行しなさい」と言うんですが、自分のことになると、皆さんだめだ

とおっしゃる。共産党に喧嘩を売るつもりはないんですが、「酒井市長、篠山市がこうなったのには市民、職員に責任はない。市民や職員に負担をおしついたらいけません。市の再生は不要不急な事業を削りなさい」と言うんです。そこで、共産党の方と議論して「不要不急な事業って何ですか」と尋ねました。もう削っていますよ。ないんです。そういう事業は。共産党の方や（反対と）言う方の意見も聞いていますが、なかなか削減というのは難しいです。

何とか職員も給料10%削減に組合が応じてくれました。20%のところを10%として、です。県内最低水準です。兵庫県下の町を入れても最低です。私も20%は当初から削っていました。市長もそれでよいのかと言われて。市議員も期末手当を半減されました。こんな議会もないと思います。議会自らも取り組みをされました。こうなれば市民の皆さんも、「仕方ないかな」と思ってくださいます。

将来への道筋

11月に再生計画が策定できました。ところが神戸新聞はきついんです。少しくらい褒めてもらってもいいと思いますが、まだ甘いと。「6月の再生案発表後は妥協の連続であった。休館案を示したのに、引き続き検討するというのはこれでよいのか。もっとやれ」という厳しいご指摘をいただきました。神戸新聞に喧嘩を売っているわけではないんですが、市民センターの図書コーナーは住民100人くらいにボランティアとして来てもらって順番に運営するというで継続になりました。これは、立派な市民参画だと思うんですが、「丸投げ」とおっしゃる。これ（こ

の書き方)は、ないと思います。普通は「休止を検討したが、こういうふうになった」というのが客観的な見方ではないかと思います。

篠山再生計画のダイジェスト版の中身は後ほど見ていただきまして、私としては、この計画はいろんな事業を削ったり、補助金を削ったりしていますが、市民が「こんなことであれば、篠山市に住めない」と言われるようなことはできるだけ排除しました。税金も上げておりません。水道料金も上げないように何とか抑えております。市民会議が言う削減額の年額 15 億円にはなりません、12 億 5000 万円の削減はできます。市民会議の言う 8、9 年の間に再生はできませんが、10 年少し、平成 32 (2020) 年に収支のバランスがとれます。それまでは、残念ながら毎年収支不足が続くということです。

しかしそれでも、私としては何とか将来への道筋がつけられたのではないかと、少しホッとしているところであります。市民の皆さんにも心配をかけましたが、少しはご安心をいただきたいと思います。この (2009 年) 4 月に合併 10 年を迎えまして、新聞等に取り上げていただきました。日本経済新聞は「篠山市財政再建長い道」と。客観的な記事だと思います。神戸新聞も「功罪抱えて新たな出発」。合併することによって、今まで 4 町がいろんな施策をしてきたのが一つのことで取り組めるようになりました。ごみ処理場、斎場とか広域的な課題も解決できました。利点はあるんですが、市民の生活が「再生」ということから不満が出てきています。篠山市の周辺地域、篠山市は 265 集落がありますが、多くが周辺地域です。城や駅周辺 (の集落) は少ない。役所も窓口業務だけで人数も限られたものになりますので遠くなる。合併の

時、サービスは高く (よくなる?) と (思われていましたが)。どこが高いんや、ということから、「合併してよかったですか、どうですか」と、市民に聞きますと「よくなかった」と言うことが多いと思います。合併した後のことが、もう一つうまくできなかったことが大きいのではないかと。合併に大きな期待は抱かずに、これから行財政改革のために合併するんだということを思わないといけないのではないかと思います。

「ビートたけしの TV タックル」に出たこともあります。なぜ出してもらったかと言うと、前の市長の時、篠山市が取り上げられたんです。合併して借金ができて困っていますと。平成 16 (2004) 年のことです。出演依頼が来たので、行かないと何を言われるかわからないので行くことにしたんですが、行く以上は前向きな取り組みをしていることを言わせてほしいと考えていました。(収録では)「篠山市、いくらくらい借金があります?」、「全部あわせて 1000 億円くらい」と答えますと、ビートたけしさんが「そんなだったら、もっと借金して皆で夜逃げしたらいいんや」と。「前の市長はどうされましたか?」、「実は亡くなりました」、「借金苦で自殺したんですか」とまた、笑われまして、こんなのがテレビに映ったらえらいことやな、と思いました。カットされていましたが。収録中、ニコニコしていましたら、三宅 (久之) さんに「市長、あんた、笑うてる場合と違いまっしょろ」と言われまして散々やったんですが、テレビを見て市民からは「市長は前向きに、よう頑張っとるな」と思っていたいたようで、(出演して) よかったなと思います。三宅さんが「市長、いっぺん矢祭町に行ってみなさい。「もったいない図書館」。あんたのところの図書館と違う」と言うので、私

も見に行きました。確かに手作りの図書館で職員もボランティア的にやっておられる。

チェック機能を二重・三重に

さらに私としては今年（2009年）10月、「篠山再生計画推進委員会」をつくりました。これをなぜつくったかを申します。再生計画は、できたけれども、10年もかかる長い計画です。行政の計画は10年前につくった計画が、今、絵に描いた餅のようになっています。毎年見直すといっても、私がいつまでも市長をするわけでもなく、議員の方も今は「改革」と言っている、住民の代表は選挙で選ばれますので甘くなる。二重、三重にきちんとしたチェックをしていく必要があるということで委員会をつくりました。議会からは「こんなものをつくらんでもわしらがチェックする」と言われましたか、議会もだんだん甘くなりますので、毎年見直してやっていきたいと思っています。

余談ですが、片山（善博）さん、前鳥取県知事が篠山市に来られまして講演されました。「多くの自治体が考える力を十分もたず、自立しているとはいえない。合併しなさい、合併特例債が充当できます。特例交付税がみえますと言われて、これを使って大変な目にあっている自治体がある」。うちのことで、ね、「騙した国も悪いが、騙された方も悪い。すでに国の交付税会計は破綻に近いからそんなことがなぜできるか、少し考えればわかるはずだ。自治体の皆さんも国の言うことが本当かどうか自ら考えなさいよ。いつまでも国をむいて口を開けていてはあきませんよ」と厳しい話をさせていただきまして、私たちも反省したところです。

その結果、篠山市の今の財政状況です。こ

れが実質公債比率25%、25%を超えると（財政）健全化団体です。将来負担比率350%。これを超えると健全化団体になるんですが、危ないところにおるんです。一つ間違えると2、3年したら24.9%までいきますので、今日の話を覚えておいていただいて、あと3年して篠山市が健全化団体になっていなければ喜んでもらいたいと思います。将来の見通しがつきませんので、ここまでしても、こういう厳しい状況でスレスレのところまで頑張っていないといけないということです。

市民の理解を得る難しさ

今年兵庫県内の合併した市長の選挙で、対等合併のところは、現職は負けています。全国的にも、です。合併しても余裕のあることはできない。（財政が）苦しいから。でも、周辺は合併したらおいていかれますから、市民からは不満が出てきます。それを市長が（財政状態が）危ないからやらないでこうとすると不満が出て、選挙で市民の理解が得られない。「私はこんないいことをしますよ」と言うほうに票がいつてしまう。これが現実なんですね。これは同じ観点ですが、『なぜ改革は必ず失敗するのか』。この木下（敏之、前佐賀市長）さんは佐賀市の改革を進めて6年くらいの選挙で負けたんです。改革をやると、「改革」と名前がいいが、実質は、施設を休館したり、人を少なくしたり、給料を減らしたり、補助金を減らしたりですから誰も喜んでくれない。ここが難しいところではないかと思っています。市民の理解を得つつ進めていくことが、いかに難しいかということを思っておるわけです。人間は投票行動において、全体的なことを考えるか、自分のことを考えるかを考えますと、自分のことを考える

方が多いということではないかと思います。こういうことを理解しつつやっていかないといけない。こういうことを十分承知してやらなければいけないと思っています。

今年、麻生内閣の時の臨時交付金経済対策がありました。各家庭には定額給付金で一人1万2000円（原則）が給付されました。自治体版もありまして、「これだけ使いなさい」と篠山市に5億おりたんです。これで助かったという意味です。このお金があったために、今までできなかった学校の耐震改修、公民館の改修ができるようになりまして、（市民の不満も）少し落ちついたかなと。施策そのものは麻生さんのばら蒔きみたいなことで、良いように思わないんですが、現実としては、市民感覚として、「篠山市は何もしてくれない」というのが、（臨時交付金のおかげで）少しは助かったかな、という気がしています。

日本一の故郷、篠山

次に「篠山再生計画（まちづくり編）」です。「行財政改革編」と「まちづくり編」をなぜつくったか、と申しますと、行財政改革編ばかりでは市民は「暗い話ばかりやな。篠山市に明日はないのか」と思うでしょう。そういう意見も出ましたので、どのようなまちを目指していくかを考えなければいけないということで、短期間にまちづくり編をまとめまして、ダイジェスト版の後半に記載しています。住みよさ、子育て、魅力、元気、市役所、シンボルという「日本一のふるさと篠山市を築いていく」と、アドバルーンを上げました。将来人口6万人も平成32（2020）年に4万2000人に見直しています。どこの自治体も総合計画は右肩上がりの今以上の人口を設

定するのが普通です。しかし、現実を見据えてそれで努力することによって4万2000人と見直しています。

篠山市には病院の問題がありまして、財政再建とともに大きな問題でしたが、兵庫県西宮市に本院がある兵庫医科大学病院が篠山市にありまして、中核病院だったのが撤退すると言いだされました。「医者もいない、儲からない」と。これが撤退されたら、篠山市の市長でいられなかったかもしれませんが、何とかおっていただくことになりました。兵庫医大の新家（荘平）理事長です。よい方なんです。普通の方だったら物事を損か得だけで判断します。損か得かで判断すると兵庫医大が篠山市にいるメリットはないんです。医者もいないし。新家さんは、篠山のまちが好きで、「このまちのため医療を尽くすことが医大の使命である」と学内で説いてくださって、私どもも精一杯の支援をするということで、何とかおっていただくことになりました。この二つの問題が解決できたことが私にとっては大きな誇りであります。

結婚相談室を設けました。相手に巡り会えない、そのような事情を克服しようと考えています。女性の方は登録していただいたら、市外の方も受け付けております。

篠山市の景観を守るために、景観法を来年度から入れるように取り組みを始めています。丹波篠山・まちなみアートフェスティバルを行った、河原町の伝統的建築群保存地区では、文化庁の事業として全国で65番目、兵庫県下では2番目に保存地区として選定していただきました。また、篠山は、今年2月に「農都宣言」をしまして、農業に力を入れようとしています。新たな観光のまちづくりも試みています。10月に丸山という12戸の集落がありますが、7戸が空き家になってい

まして、3戸を宿泊ができるように改装しました。一つの家を借りて6万円、4人で泊まると一人1万5000円です。朝食と夕食がついています。4人より増えると4000円上がるだけです。テレビでも度々とり上げていただいて、人気を呼んでいます。職員は給料が1割減ってということもありまして、当初は反発もありましたが、今では落ちつきまして、残った職員は前向きに厳しい中に取り組んでいます。去年春からプロジェクトチームを立ち上げ、自分の持ち場だけではなく、持ち場から離れて、篠山市の持っている大切な課題を職員自らが検討して施策に生かそうという取り組みをしています。実際に総合窓口、アグリプラン21、景観法、環境計画も職員の取り組んだことをできるだけ尊重して施策に反映してやっております。若い職員が中心になって、厳しい中、よく頑張ってくれていると思います。

篠山市の大きな課題である、人口が減りつつあります。高校を出ると出ていってしまう。できるだけ定着するようにやっていかないと減るばかりで、篠山市はもたない。高校を出ても（篠山に）おれるように地元企業、企業誘致、通勤しやすい条件づくりをやりたいと思います。まちづくり協議会を小学校区単位でつくりまして、取り組みをしてもらうようにしています。職員もこういう地域にはり付いて地域のお手伝いをできるような仕組みも設けました。

福住地区。京都に近いところで、南丹市の園部を越えたところですよ。2030年に人口を倍増しようという計画があります。京文化の影響を強く受けた地域で、人間性も京都に近いという誇りをもっています。ふるさと応援団として、市外の方も応援してくれとお願いしています。桂文珍さんが篠山市出身ですよ

で団長として頑張っています。先生方、ふるさと納税はむりです。2年間頑張って集めたのが1500万円です。篠山市の借金と比べようもない額です。制度を変えてもらわないと集まりません。

400年祭が今年ありました。最新の新聞では、篠山層群で角竜類の化石が発見されたと報じていただきました。まだまだ恐竜などの化石があるのではないかと。「宝の山」と学者の先生はおっしゃっています。今後期待しております。また皆さん、みておいていただいたらと思います。

最後に、『ガバナンス』という雑誌の9月～11月に篠山市を取り上げていただいています。葉上太郎さんというジャーナリストの方がお越しになって篠山市のことを調べていただいています。また見ていただいたらと思います。9月号が「アメをしゃぶった、その後で」。次が「サービスは高く、負担は低く」の幻想、「夢の人口6万人」の虚実」。12月号はよい方に書いていただくように期待しておりますが、そういう取り組みがあります。

以上とさせていただきます。

【質疑】

司会 どうもありがとうございました。一連の学習会でも授業の中でも、一旦始まったら、事業、組織を圧縮するのは大変なエネルギーが必要だと。まさに今日の話はそうでありました。しかしその中で逃げないで立ち向かわれた市長を中心とした篠山市の取り組みであると。内側から新しい内発型の篠山市の魅力が見えつつあるということは市長のお話からよくわかるのではないかと思います。率直な話をしていただきまして、皆さん

方も改革とはどういうことかイメージが鮮明になってきたのではないかと思います。

質問 丸山地区で人がいなくなった民家を改良されたということですが、改装費用はいくらくらいかかったのか。どういう目的なのか、観光目的か、人に住んでもらうためなのか。今までどれくらいの人を利用されたのか、教えてください。

酒井 この事業は篠山市として直接主体としてやった事業ではなく、篠山市が提案して事業を計画して事業主体は丸山集落の方が NPO 法人をつくって、篠山市の出資法人が共に事業を進めていました。費用は 4000 万円くらいです。うち 3000 万円は国の補助事業を用いています。1000 万円は出資会社が借入しています。経営はオープンが 10 月からですから、これからですが、テレビで紹介

されて予約を入れていただいていると聞いています。篠山市はお金を出しているということではありません。目的はこの集落は屋根が特徴的で、茅葺きにトタンを重ねていた。昔は裕福な村だったと聞いています。女中部屋があったり。専門の方からよい評価をいただいて空き家がありますので、村の活性化のために 12 戸のうち 7 戸あいていますので、集落そのものが成り立たないので活性化のために事業を始めたということです。

司会 景観について指導されたという東京大学の西村先生のお弟子さんが、今度、龍谷大学に来られますので、また学生をつれて伺いたいと思います。講演はこれで終わりにしたいと思います。最後に拍手をお願いいたします。どうもありがとうございました。

[2009 年 11 月 28 日]